

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月28日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社 クリエイト		
事業所名	グループホーム 久慈浜	ユニット名	1F
所在地	〒319-1222 茨城県日立市久慈町3-4-14		
自己評価作成日	平成25年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870200896-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870200896-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月15日	評価機関 決 済 日	平成26年4月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

菜園では、季節の野菜を育てている。防災対策に力を入れている。
--------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者が地域の祭りや小学校の運動会を見に出かけたり、地域の飲食店や図書館を利用したりできるように支援しているほか、小学生の町探検学習を受け入れ、地域の人々と交流ができるよう支援している。</p> <p>職員は利用者との日々の係わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、囲碁が好きな利用者の相手をしてもらえるようボランティアに来てもらったり、歌が好きな利用者が楽しめるよう、歌手のリサイタルに職員が同行している。</p> <p>廊下にソファや椅子のほか、オルガンやトレーニングマシンを配置し、利用者が自由に利用したり、思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念3項目を作り、毎朝申し送り時、全員で唱和し、実践している。理念は事務室に掲示し常に意識できるようにしている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員で話し合って作成し、事務室や食堂に掲示している。 職員は毎朝申し送り時に理念を唱和して共有を図り、日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会の見学、小学生が訪問してくれるなど交流している。近隣の飲食店や商店施設、図書館を利用している。地域のお祭りを見学したり、散歩中など日常的に近隣の住民と挨拶や会話を交わしている。近隣の住民の畑の収穫に声をかけてもらい、手伝わせてもらった	利用者と職員は散歩時に地域の人々と挨拶を交わしたり、キュウリや茄子、トマトの収穫時に近隣の菜園の手伝いをさせてもらっている。 利用者は地域の一員として近隣にある小学校の運動会や地域の祭りを見に出かけたり、地域の飲食店や図書館を利用したりしている。 音楽療法や囲碁のボランティア、小学生の町探検学習を受け入れているほか、利用者は法人系列の高齢者専用賃貸住宅で開催される日本舞踊やバンド演奏のイベントに招かれ、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練時、近隣住民にも声をかけ、いっしょに消火器の取扱い方法を消防署員から学んだり、事業所内で行なう応急手当救命講習に参加していただき、共に学ぶ機会を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催。議事録を作成し、職員全員に周知し、必要に応じ会議等で話し合っている。議事録は家族へ配布するとともに施設内に掲示しいつでも誰でも見られるようにしている	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、地域住民で2ヶ月に1回開催するとともに、議事録を作成して全職員で共有しているほか、家族等に配布したり、誰でも見られるように事業所内に掲示している。 会議では利用者の状況や事業所の活動を報告しているほか、委員からの意見や助言、地域の情報などを得たり、他グループホームの成功事例を紹介してもらい、運営に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業所懇談会や連絡会に参加し、意見交換をしている。運営推進会議に出席してもらっている。毎月、市社協の介護相談員が来所される 市の担当課と情報交換や相談などを行ない、協力を得ている	全ての運営推進会議に市担当者の参加を得ている。 市担当者に疑問点や利用者の問題などを相談したり、情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や、身体拘束防止のポスターを掲示し、職員の意識付をしている。玄関の施錠に関しては、利用者の離設があり運営推進会議等で話し合ったり、ご家族の了承のもと施錠している。利用者が外出したい時はいつでも開錠している	身体拘束防止のポスターを掲示するとともに、職員は研修や話し合いなどにより、身体拘束の内容や弊害を把握し、身体拘束をしないケアに努めている。 帰宅願望の強い利用者があるため、玄関を施錠することについて運営推進会議で話し合うとともに、家族等の承諾を得たうえで施錠しているが、利用者が外出したい時はいつでも解錠し、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や虐待防止のポスターを掲示し意識付をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について、研修などで勉強する機会を持っている 成年後見制度の手続きの支援を行ない、利用している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、理解が得られるよう、十分な話し合いを行ない、契約書や同意書を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、家族会等で家族の意見要望をお聞きし、反映している 利用者は、介護相談員の訪問時に話を聞いてもらっている。玄関に意見箱を設置している	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に説明するとともに玄関に意見箱を設置している。 運営推進会議や面会時、家族会開催時に家族等から意見や要望を聴く機会を設け、出た意見等を運営に反映させている。 毎月市の介護相談員を受け入れ、利用者の話を聴く機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や毎日の朝礼、週間報告書等で提案する機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催するとともに、毎日の朝礼時に職員の意見を聞いているほか、職員一人ひとりが記載して提出する「週間報告書」も意見や提案を出せる機会の一つとなっている。 「利用者との日常の係わり方」や「レクリエーションの内容」、「外出計画の提案」、「休暇や夜勤など勤務体制の希望」など、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接や、週間報告書等で把握し、意見を聞き整備に努めている 各自に、目標管理シートを使用して目標を設定し実践できるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修係により毎月施設内研修を実施している。施設外研修の案内を職員に提示し、希望する研修に参加できるよう調整している 応急手当救命講習は全員が受講している また、新人には担当者が付き 日常業務の中で技術指導・相談ができるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームと運営推進会議の委員として行き来している。 お花見、花火大会、応急手当講習等で他グループホームと交流している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、入居時にも十分話を伺い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、入居時にも話を十分伺い、要望を聞いている。信頼関係が築けるよう努め、家族の希望も介護計画に反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、情報を収集しその時の状況を見極めてサービスを行なう		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理・配膳・下膳・片付け、洗濯物干し・洗濯物たたみなどできるだけ利用者と職員が共同で行っている。手打ちうどん、手作りおやつなどいっしょに作っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に面会でき、好きな時に外出・外泊もできる。遠方の家族は居室に宿泊できるようにしている イベントがあるときはお知らせし参加を呼びかけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けず、いつでも面会できるようにし、居室等でゆっくり過ごせるよう支援している。家族と一緒に自宅や墓参りや法事に出かけている。希望者はかかりつけ医を変えずに、継続して受診できるようにしている	利用者の昔の職場や地元の友人、家族等が面会に来訪しており、職員は居室などでゆっくり過ごせるよう支援している。 利用者は年賀状や遠方に住む親戚と手紙のやり取りをしており、職員は代筆や投函の支援をしている。 職員は利用者が自宅へ草取りや果実を取りに行ったり、かつて行った川や海で釣りができるよう支援している。 近くのお寺で古くから行われている行事「十六夜」にも出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を調整している。仲の良い方同士で散歩や買い物に行く。イベントやレクリエーションで楽しみながら交流が図れるようにしている。職員が間に入り会話ができるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話や手紙をくださる家族もある。相談があれば対応できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	受け持ちを中心に本人の希望を聞き把握している 困難な場合は職員間で話し合い、会話が可能だった頃の言動をヒントに本人本位に検討している	職員は利用者との日々のふれ合いの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 囲碁の好きな利用者の相手をしてもらうためボランティアを依頼したり、歌が好きな利用者には家族等からカセットテープやCDを届けてもらったり、好きな歌手のリサイタルに職員が同行して観に行けるよう支援したりしている。 思いの表出が困難な利用者の場合は、日常の言動を職員で話し合い、利用者の望む生活ができるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメント表、本人・家族等から今までの生活環境を見聞きし、記録してサービスにつなげている			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿って記入する介護記録と、バイタルサイン、食事量、排泄、睡眠等の記録により把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、受け持ち、計画作成担当者等関係者で話し合い介護計画を作成している。カンファレンスで意見を聞き反映することもある。6ヶ月に一度、モニタリングを行なっている。また、状態変化時は随時話し合い、計画の見直しを行なう	介護計画は利用者や家族等の要望を反映させるとともに、カンファレンスや職員会議で話し合っ作成している。 モニタリングと介護記録を基に、設定期間毎に介護計画を見直すほか、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録を記入し、申し送りや連絡帳で情報共有しながら実践している。必要に応じ、カンファレンスを行ない、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって病院の付き添いや買い物に出かける。庭に、パターゴルフができるようホールがある。雨の日でも、運動ができるようエアロバイクが置いてある。施設内にジュースの自動販売機を設置し自由に購入できる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署、警察署に協力してもらっている。通院時、介護タクシーを利用している。美容師、歯科医師等が定期的に訪問してくれる。近隣の図書館、商店、飲食店を利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけを決定している。定期的な通院のほか、病状に応じ、かかりつけの医師へ相談し適切な医療が受けられるよう支援している 協力病院の医師によるインフルエンザの予防接種を施設内で全員受けている	契約時に利用者や家族等から希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。 かかりつけ医への受診は家族等が付き添ったり、家族等の依頼を受けて職員が付き添ったりしている。 受診結果は家族等から報告を受けて記録するとともに、職員が付き添った場合は緊急時を除いては毎月の請求書送付時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる症状や、処置内容などすぐに看護師に相談し、適切に対応している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に面会に行き、利用者の心身の状態を把握できるようにしている。病院の医師、看護師と、密に連絡をとり情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」を作成し、家族より同意をいただいている。終末期の状態、過ごし方は個々により様々であるので、その都度十分話し合いながら進めていくことを家族と理解しあっている	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、利用者や家族等の同意を得ているが、同時に説明している「看取りに関する指針」に関しては書面で同意を得るまでには至っていない。事業所はこれまでに看取りの経験はなく、必ずしも終末期ケアの体制が整備されているとは言いきれない。	「看取りに関する指針」について、書面で利用者や家族等の同意を得ることを期待する。看取り介護に関する研修や勉強会を開催し、終末期ケアの体制づくりに取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、施設内で応急手当救命講習を開催し、全員が交代で受講している。対応マニュアルを理解し、対応できるよう備えている。事故発生に備えてAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合消防訓練を実施し消防署の指導を受けている。近隣住民にも訓練参加の案内を出している。毎月の自主防災訓練と定期的な研修を実施している。水害ハザードマップを掲示し避難経路を確認できるようにしている	年2回消防署立会いの総合消防訓練のほか、夜間や地震、風水害を想定した事業所独自の避難訓練を実施している。避難訓練の実施記録を作成するとともに、訓練で明らかになった課題の改善に向けて職員で話し合っている。緊急連絡網を事務室に掲示している。地域住民に案内を出して避難訓練への参加を呼びかけているが、参加が得られず、協力体制を構築するまでには至っていない。災害に備えて飲料水や缶詰、米などを少量備蓄している。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、引き続き働きかけ、協力体制を構築することを期待する。飲料水や食料は3日分以上備蓄することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇係を設け施設内研修を行ない、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。個人記録へは他利用者の名前をイニシャルで記載している。記録物は外部に見えないように保管している	接遇に関する内部研修を行い、職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。 個人記録等の書類は人目に付かないよう、各ユニットの事務室に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にわかりやすい言葉、説明を行い自己決定してもらったり納得できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者に合った言葉かけをして、自由に過ごせるよう支援している。何か行なうときは言葉かけ本人のペースや希望を尊重している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際、利用者と一緒に好きな服を選んでいる。服装の乱れはさりげなく言葉かけし整えている。 理髪、毛染めなどは本人の意向に添って対応している			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、下膳、片付けまでできる方と一緒にいる。誕生日の希望食や外食、出前、イベント食等、食事を楽しめるようにしている。菜園で収穫した野菜を使った料理を提供している	宅配業者が作成した献立の食材が届き、自家菜園で収穫した季節の野菜などを加えて職員が調理をしている。 利用者は職員の見守りのもと、盛り付けや配膳、下膳、茶碗拭きなどの役割をできる範囲で担っている。 職員は利用者と一緒と同じテーブルに着き、食事介助や声かけをしながら一緒に食事をしている。 季節に応じた行事食や利用者の誕生日には希望食を提供している。 その時の気分で好きな食べ物を選べることが、外食の楽しみの一つであることから、外食時にはメニュー表を見ながら利用者一人ひとりの好みの食事を選べるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算した献立になっている。水分量を毎日チェックしている。毎月、体重測定を行ない、食事量を調整している。普通食、粥食の提供や好き嫌いを把握し食べられないものは代替品を提供している		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方には歯みがきを、また口腔ケアを介助にて実施している 口腔内の状態も随時確認している 週1回、歯科医師、衛生士による歯科検診、口腔ケアが行なわれている		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に排泄時間、回数がかかるように記録でき排泄パターン把握する。介助が必要な利用者の排泄のサインを見逃さないようにしている。訴えのない利用者でも排泄パターンを見て誘導し、できる限りトイレやポータブルトイレで排泄できるようにしている	職員は排泄記録を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の排泄のサインを察知して誘導や声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間はポータブルトイレを使用したり、車いすでトイレ誘導をしたりして、おむつの使用量を減らし、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方には、乳製品やオリゴ糖を摂取していただくなど個々に合わせた対応をしている。水分を多く摂ったり体操、散歩など体を動かすよう支援している 医師と相談して下剤を処方、調整している利用者もいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夕方から入浴していただく。隔日の入浴になっているが発汗の多い時や希望があればいつでも入浴できる。入浴時間、湯温など希望に合わせて調整している	一日おきで夕方からの入浴を基本としているが、夏などの暑い時期に汗をかいた場合は、利用者の希望にそって何時でも入浴ができるよう支援している。 入浴時間や湯温などを希望にそって調整するとともに、浴槽にジャグジーを設置したり、柚子を入れたりして入浴が楽しみなものとなるよう工夫している。 入浴を拒む利用者には職員を替えて声かけをしたり、トイレ誘導の流れで入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間について記録をしており、状況に合わせて昼寝の支援をしている 消灯時間を決めていない 今までの生活習慣を把握し、自宅で使っていたベッドや畳に布団を敷いて休んでいただいている 寝具類を清潔にしている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルと薬袋で内服薬の内容が確認できるようになっており、用法・用量について理解している。チェック表を用い、飲み忘れや間違いがないよう確認している。 服薬時、後の変化について確認し、異常があるときは報告、対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の聴き取りで把握し、好まれるもの、意欲的にできるものを確認し支援している。家事や畑仕事、将棋、手芸等行なっている。パッチワークで作品を作り部屋に飾ったり、家族にプレゼントしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、日光浴、神社参拝、図書館などの外出は日常的に行なっている。季節に合わせて花見、花火、家族会、夕食などの外出の機会を作っている 他施設で行なうバンド演奏、日本舞踊に招かれ全員で出かけたり、希望者で、プラネタリウムやひたち海浜公園散策、釣りなどへも出かけた。家族との外出も支援している	利用者の体調に配慮しながら、日常的に事業所周辺や近くの公園、神社、図書館などに散歩に出かけるほか、広い庭で外気浴ができるよう支援をしている。 季節に合わせた年間行事計画を立て、花見や花火見物、夕食、近隣のホテルで行う家族会への参加など、外出の機会を設けて利用者が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、管理できる程度の金額を所持していただく。近隣の商店での買い物や施設内の自動販売機でジュースを自由に購入している。 施設で管理し、定期的に少額ずつ渡したり、買物したいときに渡すこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者は自由に家族等と電話のやり取りをしている。全員が家族等に年賀状を出せるよう支援している。知人との手紙のやり取りの支援をしている。電話の取次ぎを支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や洗面所には季節の花を飾る。花壇や菜園の野菜を眺め季節を感じていただける。食堂内の日めくりカレンダーで今を知ることができる。冬は和室に炬燵を用意し、トイレにヒーターをつける。 施設内にBGMを流している	居間兼食堂は明るく清潔に保たれているとともに、温度調節を行い、快適に過ごせるよう配慮しているほか、窓からは花壇や自家菜園の野菜を眺めることができ、季節が感じられる空間となっている。 居間兼食堂には利用者の習字や押し花などの作品、行事の写真を飾っているほか、一角に小上がりの畳のスペースを設け、冬は炬燵を用意して利用者がパッチワークを楽しんだり、昼寝をしたりして寛げるようにしている。 廊下にはソファや椅子のほか、オルガン、トレーニングマシンを配置し、利用者が自由に利用したり、思い思いに過ごしたりできるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、玄関の椅子、サンルーム等、好きな場所で過ごすことができる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具や寝具など本人の使っていたものや思い出の品を置いていただいている。過ごしやすいうように配置も本人と家族にまかせている	居室はクローゼットとエアコンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながらベッドや寝具、カーテン、机、椅子、整理箆笥、仏壇、テレビ、趣味の雑誌など、馴染みの物品を持ち込んでいるほか、利用者の手作り作品や写真、小物、季節の花などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室に「ゆ」ののれんをかけている。トイレのドアの色を変えて場所がわかるようにしているが、必要に応じ、「トイレ」と表示している。居室の扉には花の絵がそれぞれ付いており自分の居室を確認している。廊下の手すりの使用で自立した生活ができるようにしている		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホーム 久慈浜

作成日 平成26年4月24日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	「看取りに関する指針」について、書面で同意を得ていない。看取りの経験がなく終末期ケアの体制が整備されていない	終末期ケアの体制作りを行なう	「看取りの指針」の同意書の見直し、利用者、家族に署名をいただく 終末期ケアについて定期的に勉強会を開催する	平成27年3月
2	35	飲料水、食料の備蓄が少ない 避難訓練に近隣住民の参加が無い	災害に備え体制を整える	飲料水、食料の備蓄について見直す（3日分以上備蓄する） 近隣住民へ引き続き避難訓練の参加を呼び掛ける	平成27年3月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。